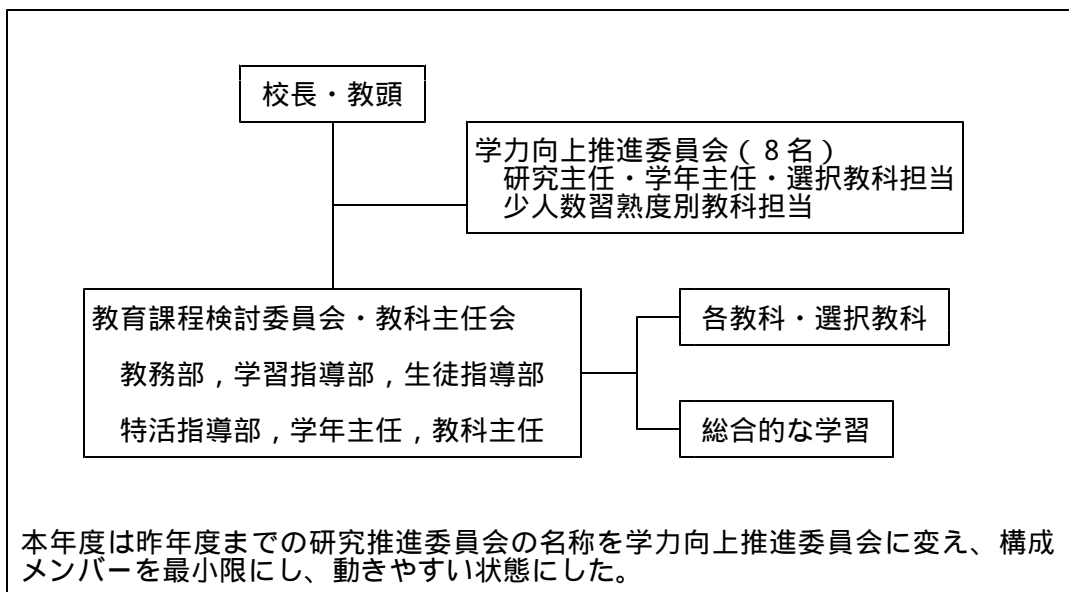


平成16年度	<p>テーマ 生徒一人一人の学習意欲を高める指導方法・指導体制の改善</p> <p>仮説 少人数・習熟度別授業は生徒の学習意欲を高めるために最も有効である</p> <p>研究内容・方法 前年度のまでの改善すべき課題に取り組むと共に研究の成果と課題を整理する。また、少人数・習熟度別指導を行う教科だけでなく全ての教科において、生徒一人一人の学習意欲を向上させるための手立てを考え、実践する。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

平成14年度は少人数・習熟度別指導のための学習集団の編成方法を定着させるところまでの研究であったが、本年度は編成方法の工夫、学力の質的な向上を目指し、「自ら学ぶ力」の育成に着手できたところが大きな成果と考えられる。本年度を中心とした今までの具体的な成果と考えられるものを以下にあげる。

少人数・習熟度別指導により、個に応じた指導を展開することができた。習熟度別指導において、人数の問題を最大限考慮したコース編成を行うことができた。

アンケート結果から、生徒、保護者共に少人数・習熟度別学習を支持している。アンケート結果から、生徒は、少人数・習熟度別学習において、今までよりもわかるようになったととらえている。

<アンケート結果より>

数学

「学級別と少人数習熟度別とではどちらが学習しやすいですか。」(H15.12)

3年生徒 91%、2年生徒 92%が少人数習熟度別を支持

「習熟度別学習を進めていますが良いことだと思いますか。」(H15.7)

2年生徒 56%が「そう思う」、25%が「どちらかといえばそう思う」

2年保護者 58%が「そう思う」、30%が「どちらかといえばそう思う」

「希望制でコースを選択していますが良いことだと思いますか。」(H15.7)

2年生徒 54%が「そう思う」、22%が「どちらかといえばそう思う」

2年保護者 40%が「そう思う」、29%が「どちらかといえばそう思う」

「授業が今までよりわかるようになってきていると思いますか。」(H15.7)

2年生徒 30%が「そう思う」、32%が「どちらかといえばそう思う」

2年保護者 14%が「そう思う」、35%が「どちらかといえばそう思う」

英語

「習熟度別学習を進めていますが良いことだと思いますか。」(H15.7)
3年生徒 53%が「そう思う」、30%が「どちらかといえばそう思う」
3年保護者 56%が「そう思う」、37%が「どちらかといえばそう思う」
「希望制でコースを選択していますが良いことだと思いますか。」(H15.7)
3年生徒 54%が「そう思う」、30%が「どちらかといえばそう思う」
3年保護者 38%が「そう思う」、44%が「どちらかといえばそう思う」
「授業が今までよりわかるようになってきていると思いますか。」(H15.7)
3年生徒 28%が「そう思う」、33%が「どちらかといえばそう思う」
3年保護者 22%が「そう思う」、45%が「どちらかといえばそう思う」

理科

「少人数学習を進めていますが良いことだと思いますか。」
1年生徒 48%が「そう思う」、36%が「どちらかといえばそう思う」
1年保護者 71%が「そう思う」、22%が「どちらかといえばそう思う」
「授業が今までよりわかるようになってきていると思いますか。」(H15.7)
1年生徒 43%が「そう思う」、38%が「どちらかといえばそう思う」
1年保護者 56%が「そう思う」、28%が「どちらかといえばそう思う」

平成13年度 全国教育課程実施状況調査問題の部分実施において、全国平均通過率を上回る結果が得られており、基礎的な学力が身に付いていると考えられた。

<実施した問題の通過率を平均して求めたデータ>

	設定通過率	全国通過率	本校通過率	全国との差
数学	62.8	56.3	69.5	+13.2
理科	72.5	71.2	77.5	+6.3
英語	66.2	63.7	75.8	+12.1

2年生問題を3年生6月に実施

教師の目から見て、少人数・習熟度別学習を実施していない教科も含め、自主的な発表や発言が増えてきている。

一斉授業では授業に参加できなかった生徒が授業に参加する意欲をもてるようになった。

希望調査や相談会など本人、保護者の意向に合わせて編成を行うことにより、生徒の学習意欲の向上につながった。

選択教科では、生徒が主体的に選択できるよう体験学習期間を設けたことにより、自ら学ぼうとする力を伸ばし、学習意欲の向上につながった。

総合学習では、発達段階に応じた3年間の学習計画の中で、自ら学ぼうとする力や課題を解決する力を育成することができた。

2. 今後の課題

少人数・習熟度別指導を行う数学科、理学科、英語科を中心に研究を進めてきたが、生徒一人一人の学習意欲を高めるためには選択教科、総合学習を含めた他教科での取り組みも必要である。本年度は各教科における取り組みまで踏み込めなかったが、次年度は、各教科において、学習意欲を高める工夫を考えていきたい。現在までの問題点であり、今後の課題となるものを以下にあげる。

少人数・習熟度別指導での評価をより妥当性のあるものにする。

複数の教員が復習のコースを指導し、その評価を総括しているが、より効率的で妥当性のある評価を追求する必要がある。

確かな学力の向上を判断するための方法を探る。

学習指導要領の基礎・基本の定着の度合いを判断する方法として本年度は平成13年度全国教育課程実施状況調査問題を部分的に実施したが、より客観的に学力を判断できる標準学力検査を実施したい。

自ら学ぼうとする力の向上については、その判断方法を生徒の観察、自己評価、アンケートなどに基づいているが、その整理が不十分である。次年度は各教科において判断材料の収集と整理を試みたい。

習熟度別指導におけるマイナス面を補う必要がある。

ホップコースの生徒指導上の問題にどう対応するか。教科だけでは対応しきれない場面もあり学年、学校をあげて援助が必要な場面もあり、その体制作りが必

要である。

また、学級単位での授業ではお互いの様々な意見を聞いたり、習熟度の高い生徒が習熟度の低い生徒を援助することができたが、習熟度別の授業では仲間の援助を受けにくい。習熟度別指導のあり方も含め検討する必要がある。

習熟度別コースに応じた指導方法の研究を進める。

学習集団の編成方法については十分な研究が進み、定着したが、指導方法については授業担当者任せの状態であり、大きな負担となっている。効果的な指導方法を検討する時間を作る必要がある。

他教科との連携が必要である。

各教科での研究は進んできたが、研究の交流がされていない。お互いに情報交換する中で、問題解決の方法を探りたい。

他教科での個に応じた指導

少人数・習熟度別指導を行う教科だけでの取り組みでは全体的な確かな学力の向上は難しい。各教科での個に応じた指導を充実させたい。

以下については現在の学校制度では改善が難しいと思われるが、改善されれば少人数・習熟度別指導はさらに充実すると思われる。

少人数・習熟度別指導をさらに推進するには教師と施設の確保が必要である。

時間割編成が困難で、バランスのとれた時間割作成が難しい。

時間割変更がほとんどできない状態で、出張などでの授業の入れ替えはほとんどできない。自習が増えた状態になり、問題となっている。また、習熟度別指導を行う数学、英語の時間割を優先的に組むため、他教科の時間割がバランスのとれない状態になっている。

学力把握のための学校としての取組

本年度は成果のところでも示したように平成13年度全国教育課程実施状況調査問題の部分実施を行った。本年度分析を試みていないが、各学期の定期試験、川崎市学習診断テストなども実施しているので活用を検討したい。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年度神奈川県教育課程研究会 全体会
日時 平成15年8月26日
場所 神奈川県立神奈川総合高等学校
対象 神奈川県内中学校
内容 学力向上フロンティアスクール実践研究経過報告
- 平成15年度 中間報告会
日時 平成16年1月19日
場所 川崎市立有馬中学校
対象 川崎市内中学校、県内中学校、その他希望校、地域在住者
内容 公開授業(数学・理科・英語) 研究報告および研究協議
- 平成15年8月 本校ホームページに学力向上フロンティアスクール実践研究ページ作成 <http://www.keins.city.kawasaki.jp/3/ke303101/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無